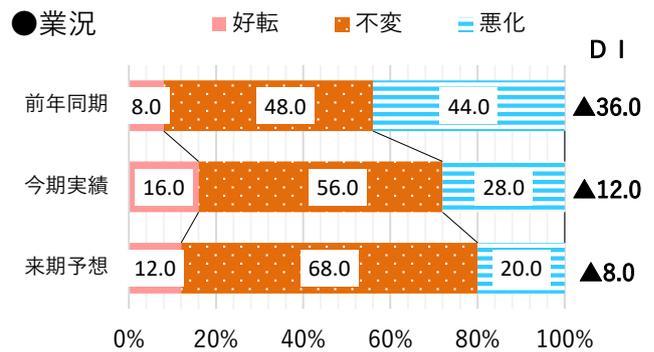


小 売 業

業況、売上、採算

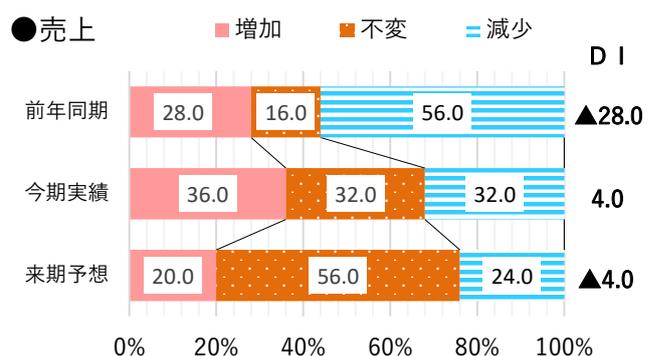
今期(2022.7~9)の業況判断DIは▲12.0で、前年同期(2021.7~9)と比べ24.0ポイント上昇しました。

来期(2022.10~12)は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。



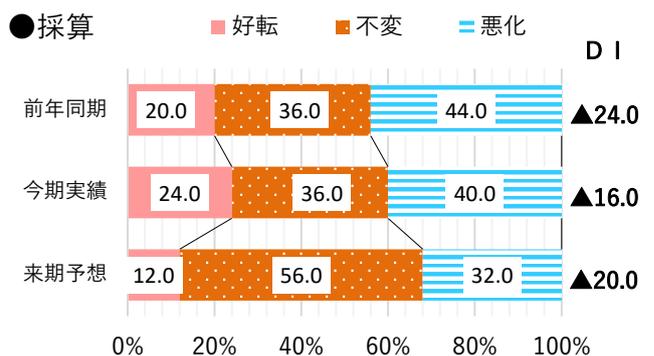
今期の売上高DIは4.0で、前年同期と比べ32.0ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上がマイナスに転じると予想しています。

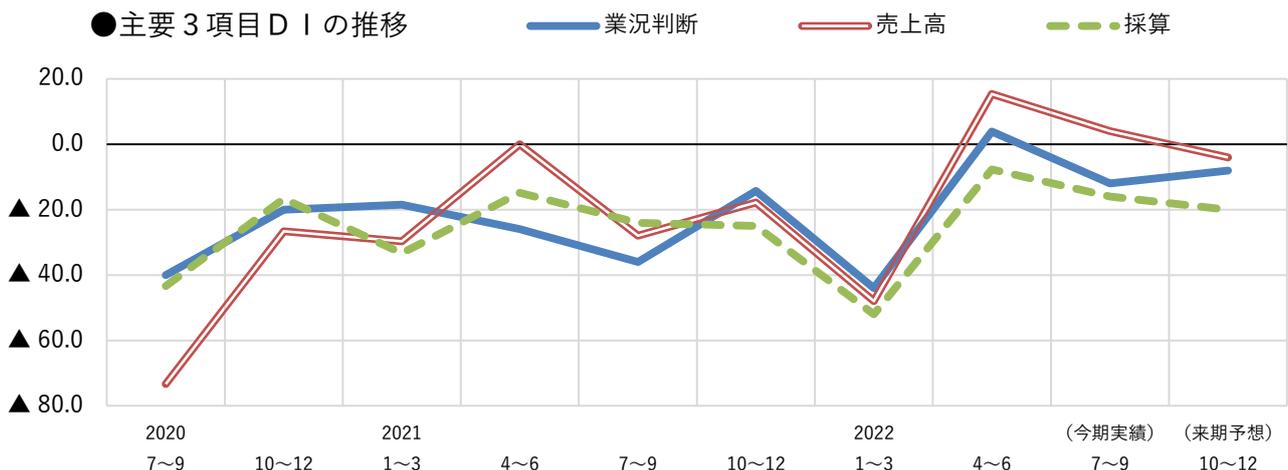


今期の採算DIは▲16.0で、前年同期と比べ8.0ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



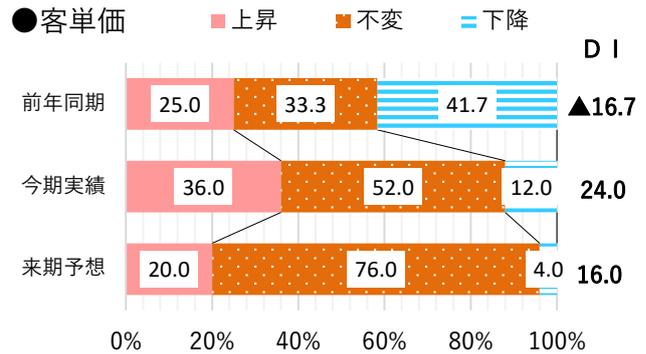
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

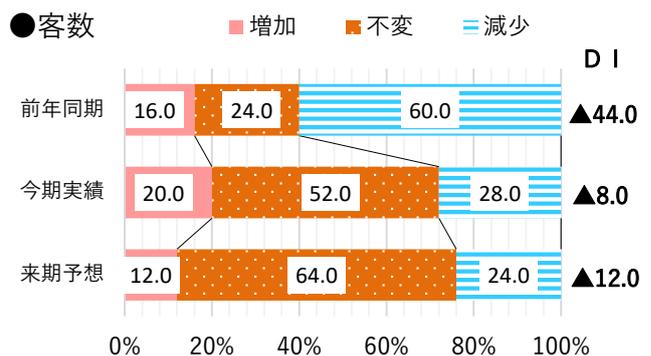
今期の客単価DIは24.0で、前年同期と比べ40.7ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の客数DIは▲8.0で、前年同期と比べ36.0ポイントと大幅に上昇しました。

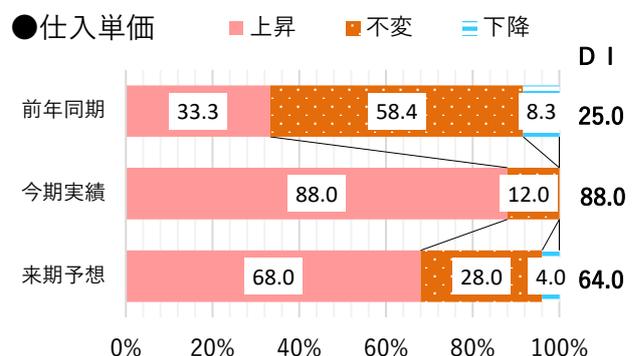
来期は、客数の減少傾向が続くと予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

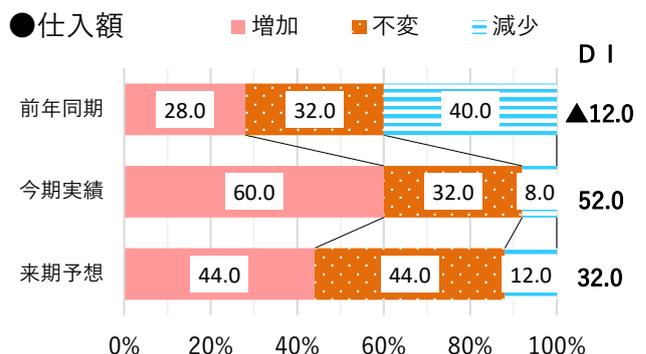
今期の仕入単価DIは88.0で、前年同期と比べ63.0ポイントと大幅に上昇しました。

来期は、仕入単価の上昇傾向が続くと予想しています。



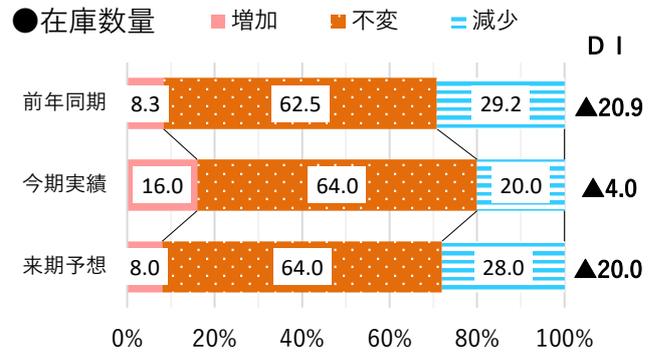
今期の仕入額DIは52.0で、前年同期と比べ64.0ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、仕入額の増加傾向が続くと予想しています。



今期の在庫数量DIは▲4.0で、前年同期と比べ16.9ポイント上昇しました。

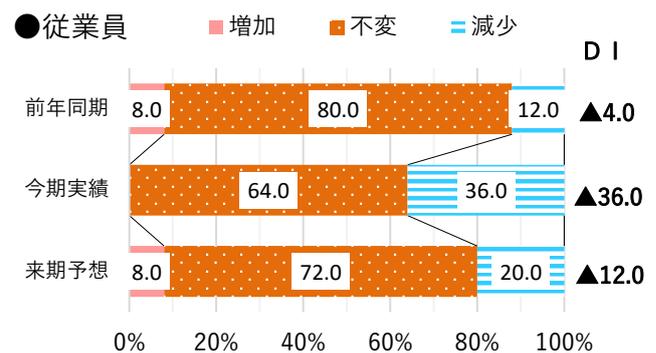
来期は、在庫数量の減少傾向が強まると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲36.0で、前年同期と比べ32.0ポイントと大幅に低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業は4.0%、適正であると回答した企業の割合は64.0%、不足していると回答した企業の割合は32.0%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の48.0%を占めています。

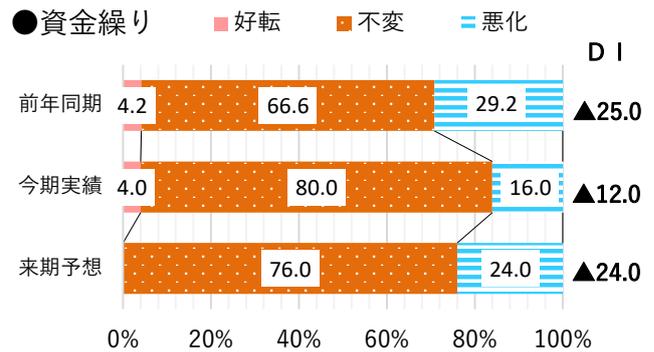
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、充足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」(同位)という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	0
	不足	0
不変だった	過剰	0
	適正	12
	不足	4
減少した	過剰	1
	適正	4
	不足	4

資金繰り、設備投資

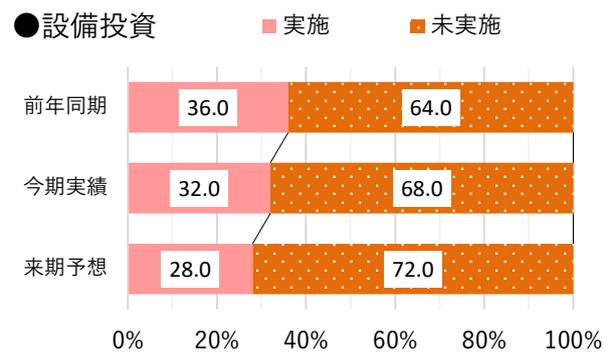
今期の資金繰りDIは▲12.0で、前年同期と比べ13.0ポイント上昇しました。

来期は、資金繰りの減少傾向が強まると予想しています。



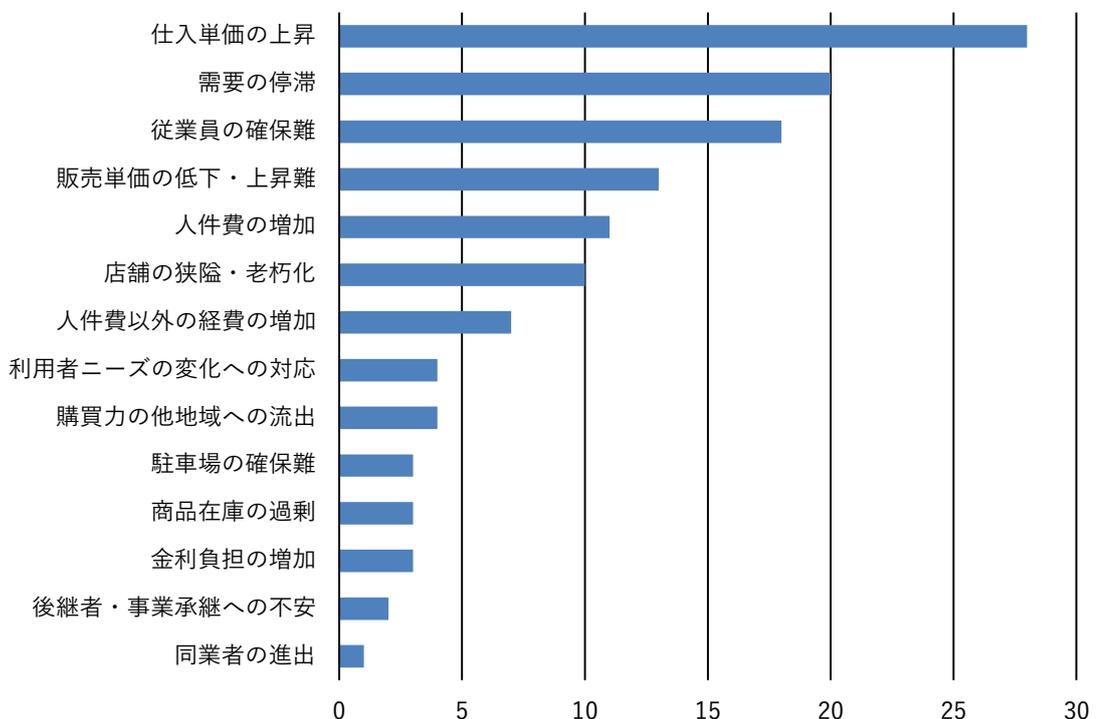
設備投資を実施した企業の割合は32.0%で、前年同期と比べ4.0%低下しました。投資内容は1位が「車両運搬具」、
「付帯施設」(同位)、2位が「店舗」、
「販売設備」、「その他」(同位)の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は28.0%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「仕入単価の上昇」、2位が「需要の停滞」、3位が「従業員の確保難」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 外出制限がなかったため、業況が好転した。(食料品小売)
- 売上は増加したが、仕入額も増加しており採算は悪化した。(食肉小売)
- コロナ禍での行動制限がないため客数は増加したが、原材料、包装資材、燃料費等が上昇し、利益が思うように上がらない状態が続いている。(菓子製造小売)
- コロナ禍の影響で業況の悪化が続く。たまに高額な品が売れるが、売上は例年通り～少し減少で推移している。客数は少しずつ減少している。今年はメーカーが2～3度値上げしており、仕入価格が増加し、在庫は減少した。(衣服・身の回り品小売)
- 売上の減少に歯止めがかからない。資金繰りにも苦労しているので、売上の回復に向けて大胆に動けず、悪循環が起きている。経費に占める人件費のウェイトが大きくなっている。(衣服・身の回り品小売)
- 市場で商品を販売しているが、量販店と比較した集客力の弱さを感じている。(衣服・身の回り品小売)
- 仕入価格が上昇したが、売上額から見て気になる程ではなかった。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルスの影響で業況が悪化した。(自動車小売)
- 物価上昇に伴う買い控えにより売上が減少傾向にあったが、9月からは値上がり前に商品を購入しようとするお客様が増加した。(家電量販店)
- 昨年と比べて暑い日が少なく、客数が減少した。(家電量販店)
- コロナ禍に伴う行動規制がないことから、外食、観光へ客足が向いており、売上が減少した。最低賃金の引き上げに伴い、パートタイマーの出勤時間の管理が負担となっている。(大型店)
- 新型コロナウイルスの流行により公共交通機関の利用者が減少し、客数と売上が減少した。(大型店)
- 店舗の改装によって売上は増加したが、電気料金と燃料費の上昇により利益は伸びなかった。(大型店)
- 売上は前年同期の実績を多少上回った。(コンビニ)
- コロナ禍が落ち着きつつあるため、客数と売上が増加した。(ドラッグストア)

[来期の業況について]

- 食料需要が高まり、仕入単価が上昇すると思う。外出や旅行はより一層活発になるだろう。小樽のブランド力の更なる向上に期待する。(食料品小売)
- 大きな変化はないと思われるが、賃金の引き上げに伴い採算は一層悪化する見込みだ。(食肉小売)
- 価格転嫁が思うに任せない中で最低賃金の引き上げもあり、難しい状況が続く。(菓子製造小売)
- これ以上の業況悪化を防ぐため、コストのかからない事業を予定している。長期的に少しずつ回復に向かってほしい。今期で大幅に値上げした商品もあり、厳しい状況が続くと思う。(衣服・身の回り品小売)
- 急激な好転は難しいので、経費を減らし、新規ニーズを掘り起こしたい。(衣服・身の回り品小売)
- 売上の増加を見込むが、業況は少しずつ悪化に向かっていくと思う。(衣服・身の回り品小売)
- 今期同様、仕入価格の上昇を見込む。(衣服・身の回り品小売)
- 新車生産の回復の兆しがあるとの話は聞くが、あくまで噂なので、好転は見込めない。(自動車小売)
- 新車の生産遅れによる売上の低迷や、中古車価格の値上がりが予想される。(自動車小売)
- 全く見通しが立たない。(自動車小売)
- 従業員の高齢化に伴い退職者が増えているので、人材確保に取り組む。(大型店)
- 光熱費の上昇による利益の減少が続くと思われる。(大型店)
- コロナ禍の状況次第だが、業況の好転傾向が続くと予想する。(コンビニ)
- 地元客に加え、インバウンドの増加を期待したい。(ドラッグストア)